

# 着手時期明言せず

## ヘリパッド本体 工事で防衛局長 反対運動理由に

沖縄防衛局の真部朗局長は22日の定例会見で、東村高江の米海兵隊ヘリパッド新設工事の本体工事着手時期について「反対活動もある

るので、確たる見通しを言うことは、少なくとも現時点では難しい」と述べ、明言を避けた。

さらに真部氏は、国指定の特別天然記念物ノグチゲラの営業期(3～6月)中の同工事について「毎年、営業期は重機で騒音を立てる工事は差し控えている。今年もその方針に従うが、それに触れない作業ででき

るものがあるかは、まだ十分に詰めていない」と述べ、営業に無影響と判断した作業は行う可能性を示唆した。

また今月中旬、同工事現場で同局側と反対住民側がもみ合い、負傷者が出たことについて真部氏は、「けが人が出たことは残念だが私ども職員側でもけが人が出ている。繰り返しようだが、安全かつ円滑な工事を目指すように一層努力していきたい」と話した。

米空軍が16日の嘉手納飛行場でのパラシュート降下

訓練を「例外」実施としたことについて、真部氏は「残念だが、まだ(例外の説明を)得ていない。『天候上の理由』との報道もあるが、私どもが聞いている訳ではない。引き続き求めたい」と述べた。